

船舶事故等調査報告書

平成23年2月24日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

| | | |
|----------|--|---|
| 事故等番号 | 2010広第196号 | |
| 事故等種類 | 乗揚 | |
| 発生日時 | 平成22年8月6日 10時30分ごろ | |
| 発生場所 | 愛媛県今治市 造船所の専用岸壁 菊間港防波堤灯台から真方位066° 4.5海里付近 (概位 北緯34° 04.1' 東経132° 55.2') | |
| 事故等調査の経過 | 平成22年11月10日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。 | |
| 事実情報 | <p>船種船名、総トン数 貨物船 第五旭丸^{あさひ}、499トン</p> <p>船舶番号、船舶所有者等 140077、大阪旭海運株式会社</p> <p>乗組員等に関する情報 船長、二級海技士（航海）</p> <p>死傷者等 なし</p> <p>損傷 船底部に擦過傷、プロペラ先端部に変形等</p> | |
| 事故等の経過 | 本船は、船長ほか5人が乗り組み、空船で、船首約2.40m、船尾約3.35mの喫水をもって、今治市にある造船所の専用岸壁を出航中、平成22年8月6日10時30分ごろ、船尾付近に衝撃を感じた。 | |
| 気象・海象 | 気象：天気 晴れ、風向 北東、風速 約1.7m/s、視界 良好 海象：潮汐 下げ潮の中央期、海上 平穏 | |
| その他の事項 | <p>船長は、船底に衝撃を感じた後、船尾付近の水深を計測したところ、右舷側（岸壁側）約2.50m、左舷側約3.90mであった。</p> <p>船長は、専用岸壁付近に浅所が散在することは知っていたが、岸壁管理者から情報を入手していなかったため、浅所の位置を知らなかった。</p> <p>本事故後、ダイバーによる潜水調査を行い、航行に支障がないものと判断し、航海を続けた。</p> | |
| 分析 | 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析 | あり なし なし 本船は、浅所が散在する今治市の造船所の専用岸壁付近において出航作業中、船長が、浅所があることを知っていたが、岸壁管理者から情報を入手するなど浅所の位置について調査していなかったことから浅所に乗り揚げたものと考えられる。 |
| 原因 | 本事故は、本船が、今治市の造船所の専用岸壁付近において出航作業中、船長が浅所の位置について調査していなかったため、浅所に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。 | |